柏樹

題　字
南　　勇　会長
川口市退職校長会
会 報　第２９号
令和６年７月１日

あなたのいる風景

関根　要造

終戦後間もない昭和22年4月。

新しい日本の在り方を求めて新制の教育に様変わりし、その担い手となる一期生が私達でした。

国語の教科書の文字はカタカナからひらがな表記に。「お花をかざるみんないい子」は、何十回となく音読し今でも誦んじている忘れられない生き生きとした詩文です。

右の拙い絵は、その年の「夏休みちょう」の絵日記の一部ですが、毎日同じ色を使ったジープやアメリカ兵の絵ばかり・・・そんな時代でした。

手探りの学校生活の中で、砂場を作るため荒川の河原まで砂を運びに行ったり、体力のない子には先生や男の子が助け、また、ノートのない子のために運動場に石ころで文字を書かせたり、お弁当を持ってこられないお友達には先生が・・・文字どおり子ども達と一つになっての泣き笑いの毎日だったあの頃の先生たち・・・。

昭和22年5月3日。新憲法発布の記念すべき日に、私達は村の真ん中を走る往還に並んでいました。日の丸の小旗を振って、走り過ぎるジープを見送ったあの日のまぶしすぎる太陽、ほこりの道は今でも鮮やかに蘇ってきます。幼い私たちには何が起こっているのか分かりませんでしたが、興奮気味の、しかし明るい表情の先生方がそこにいました。

どんなに貧しくつらい毎日でも、学校にさえ行けば先生や友だち・・・「あなた」がいてくれる・・・時々電話のくる疎開児童だったH少年も今や80代半ばを迎え、腕白時代の思い出話は尽きません。

担任していただいた先生方は既に亡くなられましたが、多くの「あなた」に支えられて今のある私は、今も、「あなた」を求め現役最年長の一教師です。

武道との出会い

井田　和久

「君が井田君か、剣道やらんか。」あの人のこのひとことが私の学生生活を決めました。そのお方こそ、剣道範士9段の佐藤顕教授でした。その日から、私の学生生活の中心となる剣道部活動が始まったのです。18歳の春のことでした。

佐藤先生は、古武士のような風格のある方で、激しい稽古をする方でした。「一太刀でも」と掛る学生たちのほとんどが、打ち込む間もなく、道場の羽目板を背負って果てるのでした。稽古が終れば先生は、学生の輪の中にデーンと座って、剣道の「四病」や、稽古の「守・破・離」など、剣道修行について熱く語られたり、全国各地への遠征の様子や、世界選手権大会を企画されていることなど、愉快そうに話をして下さいました。初心者の私には、いつも、「良くなった。良くなった。」と褒めて下さるので、つい嬉しくなって、日々精進の4年間でした。

さて、川口市に奉職したのは22歳、やっと「少年剣道の良さ」を、少し語れるくらいの新米体育教師でしたのに、関係者の間には、「剣道の専門家が来る。」との誤報が流れていたようで、身の縮む思いをした記憶があります。程なく中体連の役員として、市内の小中学生剣士のお世話役をすることになりました。これは60歳の定年まで続けることになるのですが、各校の顧問の先生のご尽力に負うところ大であり、併せて、川口市剣道連盟の多くの先生方の格調高いご指導をいただけたお陰であったものと、深く感謝申し上げております。

第二の人生を「弓道と共に」と思い立ったときは、すでに65歳になっておりました。意を決して入門した川口市弓道連盟には、柳章三先生（弓道教士8段）という大先生をはじめ、称号者（教士・錬士）の先生方や先輩方が、日夜、稽古に励んでおられました。そのお一人お一人を師と仰ぎ、私は、80歳になる今、弓道の「真・善・美」を求めて、青木公園弓道場にて、弓を引いております。

令和６年度の出発にあたって

川口市退職校長会会長
南　勇

今年度はコロナ感染症の心配も少なくなり、いよいよ本会の活動も本格的になってきました。そこで、今年度は次の２点について取り組んでいきたいと思っております。

まず１点目は、子供達が人間性豊かな生き生きとした学校生活が送れるよう支援していくことです。現在、学校はブラックな職場と言われ、セクハラ・パワハラの温床とも言われております。このため、先生の負担を減らすべく働き方改革として勤務する時間を少なくし、授業や部活が終了するとすぐに子供達を学校から退出させ、また、学校行事についても縮小、削減、廃止という方向で進んでおります。このことは、確かに先生方にとっては負担が減りますが、子供達にとっては子供同士、さらにまた先生と触れ合うゆとりの時間がなくなり、機械的で人間味のない学校生活になり、不登校が続出する状況になっています。個性的な子供達が育ってきている現在、個性豊かな子供に応じた個別学習、探究学習を多く取り入れ、そこでの子供同士の触れ合い、先生との触れ合いを多くし、学校生活を温かみのある人間性豊かな場所にしていくことです。これはちょうど、終戦後まもない頃、市民と子供・先生が人間的に触れ合い、川口市全体が教育に対して情熱にあふれた川口プラン創成の頃のようにしていくことです。しかし、あのような状況と熱量は今は遠い存在ですが、少しでも近づくよう努力している学校を退職校長会として側面からバックアップしていきたいと思っております。

次に２点目は、子供達が志をもつよう、学校を支援していきたいと思います。明治５年の学制発布以来、昨年で１５０年たち、本市でも古い小学校は１５０周年行事を行いましたが、近くの学校では校門に祝１５０周年の横断幕が張られ、大きな元気のよい文字で「志と気概をもって取り組もう」というスローガンが書かれておりました。子供達が志や夢や希望をもって学校生活を送ることは大切なことであり、これを先生方が支えていく。この時、さらに実現しやすい下位目標等を子供と一緒になってつくり実践していくことと同時に、先生もまた、自分の志や夢や希望をもって取り組むことが大切です。

そして、これらを側面からバックアップしていく退職校長会もまた、魅力ある退職校長会をベースにして、その上に、何歳になっても自分の志や夢や希望を乗せて、子供達と先生方を支援していくことが重要ではないでしょうか。

米寿並びに瑞宝双光章おめでとうございます

杉内　泰司　先生
小谷　猛　先生
荒川　一　先生
粉井　子　先生
青木　仁　先生
渋川　三　先生
（故）野高　夫　先生
部井　照　先生
喜和　恒　先生
康久　先生

―ちょっといい話―

主体的・対話的な学び

中河　正明

縁があり、４月からも再任用校長として勤務しております。ポストコロナにおいて、教職員の英知を結集して教育活動を豊かなものにしていきたいと思います。そして、少しでも子供たちの笑顔が多く溢れる学校づくりに微力ながら取り組んでいるところです。

現行の学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの授業が求められています。ふと、教員になろうと思ったときの教育実習の思い出が蘇ってきました。実習先が川口市の小学校で、そこで参観させていただいた示範授業に感銘したことは今も記憶に残っています。45分間の授業で先生が話す場面が３回だけでした。課題の確認、中間場面での話合いの方向性の確認、まとめの確認だけです。正に今求められている主体的・対話的な学びを見せていただいた気がします。

本校の授業を参観して感じるのは、先生の話すことが非常に多いということです。担任をしていた頃、実習先の示範授業のようにいかに先生がしゃべらない授業を行うためにはどうしたらよいか考えました。子どもたちに学び方を習得させて子ども同士の話合いを充実させることが、自分の理想とする授業に繋がるのではないかと思いました。算数において問題の理解、課題設定、見通しまで子どもに考えさせれば先生が話すことは自ずと少なくなり、全体で共有を図って自力解決に臨ませればさらに話すことが減ることになります。練り上げの場面では、簡潔、明瞭、的確といった視点、共通点、相違点を通しての解法の分類・整理の仕方を子どもたちに身につけさせれば、一段と話すことが減ることに繋がります。まとめも課題に正対した子どもの言葉でまとめられれば、今求められている学びの資質の向上に繋がります。45分間の問題解決的な学びを児童に習得させることが、主体的・対話的な学びとなるのではと思い、日々、教材研究をしたことを思い出しました。

管理職というと、学校経営、学校運営、組織体といったところに目が行きがちですが、教員になろうと思った初心に戻れば、自校の学校課題研究に自分の培ったものを職員に広めていくことが学校力の向上に繋がると確信しています。

現在、教員の採用試験の倍率も下がっているところではありますが、主体的・対話的な学びを通して、教職員の魅力を啓発していくことに全力を傾注していきたいと感じています。

☆日々雑感☆

大宮台地南端にて

安部正幸

大宮台地は、北は鴻巣市から南は川口市まで広がる関東ローム層で覆われた洪積台地です。その南端に文化放送川口送信所と東中学校が並んで建っています。縄文海進のころ、この辺りは海岸で南には大きく海が広がっていたと考えられています。そのため、近くには貝塚も発見されています。今は、その南に沖積低地が広がり東京湾へと続いています。

私は東中の教諭だった頃、台地に建つ校舎から縄文海進の時代に思いをはせ、南に広がる低地を、青く澄んだ海と重ね合わせて見ていました。そんな時、県教委の許可をもらい、新潟県上越市にある上越教育大学大学院自然系のゼミで、地学を研究することになりました。単身学生寮での2年間の生活でしたが、当時小学生と幼稚園児だった我子に忘れられないよう、2週間に1度は週末に自宅に帰るようにしていました。

研究のテーマを考えるとき、ヒントになったのは在職している東中が大宮台地の南端に位置しているということでした。火山灰を含む関東ロームが容易に手に入ることから、これを詳しく調べて地質と火山活動を結び付けた教材開発ができないだろうかと考え、研究のねらいを「活火山のない埼玉県の子どもたちに火山を実感させる教材の開発」としました。1年目はロームの洗い出しから富士・箱根・浅間などの火山性鉱物の同定と含有量の調査といった専門的なものが中心でした。2年目はこれに加えて、授業で生かすための教材開発に取り組みました。実際に東中の生徒たちにも検証授業で協力してもらいました。何とか論文として完成させることができましたが、東中に在職していなければ、完成しなかった論文だと思っています。

そう言えば大学院在学中、中学校長会の先生方が上越教育大学と附属中へ視察に来られたことがありました。学内を同行させていただいた記憶があります。後に、同会の会員にさせてもらうことなど、少しも考えていない頃の話です。

その後、縁あって再び東中に校長として着任しました。早速、校舎の窓から南側の景色を眺めてみました。遠くには、建設中に発生した東日本大震災に耐えてそこに建つ東京スカイツリーが見えました。教諭の頃にはなかった現代の風景です。ロームの堆積した時期と縄文海進の時期では時代は異なりますが、今でもそこに大きく広がる青い海を想像してみると、何とも言えないロマンを感じるのでした。

校長室で日々思うこと

川鍋岳人

縁あって以前の勤務校に再任用校長として勤務している。校長室に掲額された諸先輩方に励まされ、何とか頑張っている。

それにしても、お世話になった校長先生方は、時代の先を読み若手を育成していたと感じる。ある校長には、「これからは、教育相談の時代だ」と言われ、厳しい指導が全盛期にも、決して子どもの心から離れた指導をしてはならないことを研修させていただいた。当時、問題行動の対応に学校は翻弄し、今日で言う不登校児童・生徒が現れ始めた時期だった。保護者も社会も、学校に厳しさを求めていたし、生徒に指導する際も、良い事と悪い事がはっきりしていた時代だった。しかし、今求められている教育は、違う。保護者対応も校長の出番が多くなり、「校長がしっかりしろ」では、もはや立ち行かない。私が教育の現場にいるこの約40年間に、世の中は大きく変化したことを痛感する。

まず、大きな社会変化だ。科学技術が進歩し、価値観が多様化し、国際化も進む中、社会変化の波は大きく学校を変えた。特に想像をはるかに超えたＡＩの進歩は、授業形態を始め学校教育に革命をもたらした。また、コロナ禍では、学校の存在そのものが問われた期間であった。

次に子どもの変化だ。千年以上も前から人間の感情は、基本的に変わらないが、変化のスピードが速く、人間の感情が現状を処理しきれていないのではないかと感じる。今や遊ぶのに予約が必要な時代だ。戸惑いを感じ、対応しきれていない子がいるのも無理はない。不安な気持ちから、常にどこかと繋がりたくなり、スマホ依存の子どもも多い。

そして、教員も様変わりしてきた。そもそも育ってきた社会の環境が変化している。集団をぐいぐいけん引するタイプは、随分減った。同時に、学生時代をコロナ禍の中で過ごし、オンライン授業のマスク生活を送って来た世代が、早くも教壇に立ち始めている。

ただ、社会の変化に伴い、これからの新しい時代の教育は、現在教員としてのスタートを切った若い世代が、ふさわしいと感じる。

後戻りできない社会変化の中で、これからの時代をリードできる教員の育成を行いたい。今、学校丸抱えの教育から、部活動も行事も見直されている。

かつて私が指導を受けたように若手に将来を見据えて良きアドバイスを送りたいと思う。ただ、これからの学校教育への課題は、限りなく広く深い。私に残された僅かな時間の中で「人材育成」という使命に全力を傾注していきたい。

◇◇ 各部の活動 ◇◇

◆文学散歩

芥川龍之介記念館建築予定の旧居跡、東覚寺、正岡子規の墓、六義園、吹上茶屋等

10月27日(金)、20名の参加者が午前10時、ＪＲ田端駅北口に集合しました。

田端文士村記念館を見学する予定でしたが、改修工事で閉館中のため入口でパンフレット等で説明しました。その後、芥川龍之介記念館建築予定の旧居跡を訪れました。

続いて、赤紙不動の東覚寺と谷田川通り説明版で文学者の旧居跡を確認して、当時の様子を思い起こしました。少し歩いて、大龍寺墓地の正岡子規の墓を見学し集合写真を撮りました。

この後、最後に柳沢吉保の庭園であった六義園を見学しました。忠臣蔵では評判のよくない柳沢吉保ですが、川越藩主の時三富新田の開発をし、地元では名君として語り継がれています。見学の途中、吹上茶屋で抹茶を飲みながら庭園の景観を味わって解散しました。

好天に恵まれ、皆さんの協力を得て盛会裏に終わり、駒込駅より帰途につきました。

（佐藤　修）

◆俳句の集い

時は移り新旧交代のけじめの時を迎えている今、「俳句の集い」を振り返ってみました。

退職後すぐに入会した「俳句の集い」の事務局として20年余。川口市の国語教育の推進者としての先生方の熱い思いに圧倒され・・・「俳句の集い」創設時からの、白根、榊原、国井、土橋、金子の諸先生方、そして、現役最長老の中村先生を中心とした現在にいたるまで、参加される方々の俳句愛に支えられてきました。特に白根先生の主唱される気負いのない自然体の写生句に見る句境をとおして人生観をも学ぶことができ、目標としてきました。

特筆される出来事としては、コロナ禍の活動です。開会できない句会に代わって「紙上俳句」という初の試みに踏み切ったことです。会員からの投句も増え、休むことなく活動できたことは評価されることになりました。

かつては、松本旭先生の添削指導を受けて研修を積んでいた時もあり、他の句会との交流や吟行などにより視野を広めていくことになりましょう。

新年度からは事務局も若返り、令和時代の「俳句の集い」として大いに期待されます。

（関根　要造）

◆健康教室

健康づくりは、運動・栄養・休養が大切だといわれています。運動でウォーキング、栄養で簡単料理を計画しました。当教室への希望者は28名でした。

第15回簡単ヘルシー料理は、6月29日（木）に青木公民館で実施しました。講師に櫻井道子氏をお迎えし、参加者は7名でした。久しぶりの実習はスムーズに和やかに進み、食事をしながら、櫻井先生のお話を聞くことができました。

第18回ウォーキングは、講習会形式で10月4日（水）にさいたま市別所沼公園で実施しました。天気を気にしながらも11名の参加で、講師に県ウォーキング協会の宇治田仁子氏をお招きし、有意義に進めることができました。浦和駅に集合し、歩いて別所沼へ移動し、姿勢・フォームや歩幅等の実技指導の後、沼の周囲1kmをウォーキングしました。昼食会は別所沼会館で行い、再会を喜び合いました。（原田　明）

◆盆栽教室

盆栽教室では、毎年二つの事業を行っています。一つ目は「鑑賞教室」で「樹里安」を予定していましたが、日程がずれて「生け花展」でした。そこで「樹里安」の事務局次長（たまたま会員の知り合いの方）に相談し「喜楽園」に伺って園の盆栽を鑑賞することになりました。5代目園主「飯村誠史・冬実」様夫妻自らの解説付きの案内で、鑑賞の観点や日々の管理方法など大変分かり易く説明していただきました。

二つ目は、毎年恒例の桐山宅での実技研修会です。今年は「赤松」の秋から初冬の手入れで、「目切り」と「古葉抜き」をしました。心配になるほどの大胆な作業でしたが、春には多くの新芽を持つことを期待して待っています。作業後の昼食会はコロナの関係で今回はありませんでした。

6年度は飯村様指導のグリーンセンターでの「初心者向けワークショップ」と桐山様指導の正月の「松竹梅の寄せ植え」です。一緒に「鉢の中の宇宙」を楽しみませんか。

（磯　奈保子）

◆ゴルフクラブ

今年度、４月に柏樹会のゴルフコンペに参加した所、参加者が９名という少なさに驚き、ショックを受けてしまいました。

思うに、ここ数年、コロナウイルスが万延し、特に屋外での活動は極端に制限され、禁止されるに至りました。

退職校長会も諸に影響を受け、ことごとく全ての事業が中止となりました。

コロナはその内に収束するだろうと思っていましたが、４年後の令和５年にやっと第５類に移行しました。

それでも未だくすぶり続けている状況です。

一方、私達を取り巻く環境は年金支給年令の引き上げ等で働かざるを得ない状況になりました。

こういうことから退職校長会等の事業から関心が薄れ参加しなくなる傾向が強くなったようです。

こうした時こそ、校長を無事退職した誇りを持って、今後の人生を歩んで欲しいものです。

私達の先人が築いてきた伝統を後退させてはならないと思います。

会員一人一人が現状を真剣に考え、理想の退職校長会となるよう積極的に事業に参加し、お互いに盛り上げていきたいものです。

（佐藤　誠造）

◆写真クラブ

コロナが猛威をふるった令和２年から４年にかけての３年間は活動があまりできず、やっと今年度から活動が軌道に乗ったといってもいいであろう。

今、シニア世代ではコロナをきっかけに活動に足が遠のいた人が多く、活動を縮小したり、解散に追い込まれたりしたサークルがあると聞いている。

また、サークル活動等は70歳代の人たちが中心になっており、前期高齢者の人たちは少なくなっているようだ。

校長会のクラブ活動ではどうだろうか。写真クラブでは、撮影会と研究会をそれぞれ年２回行い、庭園や公園など名勝・景勝地などで半日ほどの撮影を行う。研究会では持ち寄った写真などについて意見交換などを行う。

写真クラブはこのような活動をもう28年続けてきた。今年度は東京湾に架かる「レインボーブリッジとお台場」、それから桜の花見を兼ねての「川口西公園」の２か所で撮影会を行った。お台場では雨に見舞われ、西公園では天候不順のため桜の開花が遅れ、なかなか条件は合わないものである。

今年度の会員は13名、参加者は２回とも５名であった。参加者の倍増と魅力ある撮影地の設定が今後の課題である。

（宇多川　正博）

◆絵画クラブ

昨年度の部員数15名、隔月に行っている和気あいあいとしたクラブです。

会場の教育研究所では、花や果物・野菜を描いたり、見沼田圃など外に出て気持ちの良い空気を吸いながら写生をしたりすることもあります。年末には、美術館で鑑賞会を行っています。

各自好みの画材（水彩絵の具やクレヨン・色鉛筆等）を使い、黙々と描きます。時が経つのも忘れて集中することもあります。その間、指導者の先生が一人一人にピッタリ合ったアドバイスをしてくださいます。２、３時間があっという間です。最後に大小様々なスケッチブックを並べ鑑賞会です。ここで指導者の濱口泰巳先生から一つ一つの作品にコメントをいただけます。自分でも気付かなかったところまでたくさん誉めていただけます。芸術とは無縁だった私も嬉しく楽しくなります。

終了後は会場を変え、反省会です。自由な絵画談議。これがまた楽しいのです。何故かこの反省会だけに参加される方も時折いらっしゃいます。

今年も年６回の活動を予定しています。みなさん、一緒に自分の感じたことを絵にする楽しみを味わいませんか。絵のうまいへたは、関係ありません。

（加藤　裕）

◆英会話クラブ

英会話クラブは、コロナの収束を待ち、一昨年度から年２回、世界の国々の料理を味わいながら、それぞれの国の食文化を学ぶことを目的として、活動してきました。

一昨年度はギリシャと韓国、昨年度はフランスとドイツの代表的な料理を味わい、各国の食文化に触れて、英会話を交えながら、楽しいひとときを過ごし、会員の親睦を深めることができました。

今年度はコロナ前のように、英会話の学習をメインとした活動をしたいという部員の声に応えて、毎月１回、町会会館で講師の指導を受けながら、英会話を楽しみ、スピーチやヒヤリングの能力の向上を目指していきます。

英会話のテキストは、中学２年の教科書を使います。ＩＴの進歩はめざましく、コロナ前のようにＣＤやカセットデッキを持ち歩く必要がなくなりました。携帯で各ページのＱＲコードを読み取ると、リスニングやリーディングの学習ができます。いつでもどこでも、ネイティブの英語が学べます。

今年度も座学の合間に、世界の料理を味わいながら、その国の食文化を学ぶ機会も設ける予定です。

（福田　由美子）

教育情報

「自分の思いや考えを生き生きと伝え合う児童の育成」
～豊かな言語活動と必要感のある交流を通して～

川口市立里小学校
校長　駒崎　弘匡

１　はじめに

本校は、令和４・５年度に川口市教育委員会の「学力向上」に関する研究委嘱を受けて２年間にわたって研究に取り組んだ。その成果を令和６年１月31日に研究発表した。

２　研究主題

見通しをもち、身に付けた知識・技能を活用して、他者と学び合おうとする児童、「伝えてみたい、やってみたい、もっと知りたい」という思いをもって自分の考えを伝え合おうとする児童の育成を目指し、研究主題「自分の思いや考えを生き生きと伝え合う児童の育成」を設定した。

３　研究の実践

（1）研究構想

①仮説

○目的意識や相手意識を明確にした言語活動を設定すれば、児童が単元を通して主体的に学習するだろう。

○必要感のある交流を設定すれば、自分の思いや考えを伝え合う児童が育つであろう。

②手立て

○「友達に話す」「友達の話を聞く」土台作り（朝学習の時間を活用したトークタイムの設定、他教科でも交流の機会を多く設定）

○「伝えてみたい、やってみたい、もっと知りたい」を引き出す工夫（相手意識・目的意識のもたせ方、単元や本時の学習の見通しをもてる課題設定）

○必要感のある交流を取り入れた授業展開（話し合いのスイッチ、拡大した教科書、ワークシート）

○まとめと振り返りの工夫（学習課題に正対したまとめの書き方、学習の積み重ねが感じられる振り返り）

（2）研究組織の実践

①授業研究部

○単元構想のポイントと１時間の授業づくりを共有した。

○授業改善ルーブリックを活用して研究協議を活性化し、授業を見る視点を数値化した。共通の土台で協議できるようにした。

②環境部

○朝学習の時間を活用したトークタイムは実施方法やテーマを全校で統一した。

○話すとき、聞くときのポイントを示した掲示物を低・中・高学年別に作成し、トークテーマに合った目標を毎回設定して取り組めるようにした。

③調査部

○２年間にわたって、児童の意識調査を行った。

４　研究の成果と課題

（1）成果

○「友達と話し合いをしたあと、自分の考えが広がったり深まったりした。」「ペアやグループで話し合った内容がまとめられるようになった。」「国語の学習で新しい自分の考えをもつことができた。」という児童が増えた。

○伝え合う活動に対して苦手意識をもつ児童が減った。

○自分の考えをもつことが難しい低位の児童には交流がとても有効であった。

（2）課題

○高位の児童の学びに効果的な交流のもたせ方について、検討・研究が必要である。

○指導事項の系統性をもとに、年間指導計画の改善を進めて学力のさらなる向上につなげていきたい。

川口市退職校長会ホームページ
https://kawaguti-taishoku-koutyou.com
※ＱＲコード・ＵＲＬからご覧ください。

編集後記

会報「柏樹」第29号をお届けしますと共に、玉稿を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

コロナ禍で活動が滞っていた各部の活動が動き出し、4年ぶりに活動の様子を掲載できる運びとなりました。改めて、コロナ前の日常が戻ってきたことを実感します。それぞれの部が特色ある活動を進めていますので、多くの皆さんの参加を願うところです。

（林　俊幸）